

労働生産性向上の 3 つのポイントとは  
—「キャリア権」の全面支援を—

株式会社 開倫塾  
代表取締役 林 明夫

アベノミクスの 3 本目の矢である経済成長を確かなものにするためには、労働生産性の向上が欠かせない。

1 週間を通して 8 時間以上働く 15 歳から 85 歳までの人々の労働参加率を戦略的に増加させながら、一人ひとりの労働生産性を確実に上昇させれば潜在成長率は必ず上昇する。

では、知識が基盤となったグローバル社会で求められる労働生産性向上に直結するスキルとは何だろうか。第一に、「パソコン操作の基本」と「ワード初級」、「エクセル初級」は何としても確実に身に付け、質の高い労働に結び付けたい。

第二は、中学 3 年から高校 1 年程度の英語を読み、聞き、書き、話す 4 つの技能だ。とりわけ、英語を書き、話す能力が身に着いていない社会人は数知れない。

第三は、自分の仕事に関する最新の知識や技術だ。

以上を、本人の自覚を促しながら主体的に学び続ける仕組みを戦略的に策定し、本気になって支援し続ければ労働生産性は必ず向上する。

一人ひとりが自らのキャリアを自らの力で形成することは、基本的人権の一つ、キャリア権だと考える。週に 8 時間以上働く人のすべてが働くことに自分なりの意味、価値を見出して、どのように自らのキャリアを形成するかを自己決定。それを一人ひとりのキャリア権と考え、企業や自治体が尊重し、全面的に支援することを潜在成長率向上、とりわけ地域経済活性化の中心に置きたい。

志ある企業や自治体には、キャリア権推進企業・推進都市の宣言を提言したい。

— 2014 年 2 月 10 日記 —

